

# 春風秋霜

11月号

令和元年11月1日  
島田市教育委員会日より  
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

## 1 学校便りから

毎月各学校から送られてくる学校便りを楽しく読んでいます。初倉小学校の便りには、登校中の高校生からの「あいさつを返してくる率」ほぼ100%と載っていました。この記事からは、あいさつをする高校生の多くが初倉小学校卒業生である素晴らしさに、校長先生が心を動かされていることがよく分かります。

初倉小学校の1学期のアンケート結果では、「地域の人に自分からあいさつをしている」子供の割合が81.2%と大変高くなっています。学校内でのあいさつに比べ、地域でのあいさつは、子供にとってハードルが高くなるので、この結果は素晴らしいと思います。

萩原校長は、「5年後・10年後、気持ちのよいあいさつができる初倉地区出身の高校生を育てる」と考えています。以前、人権教育研究会において「子供の真の育ちは校外での姿」と言った宮村元校長の言葉と重なると思います。願う子供の姿を校内だけに止めず、校外や将来に求める意識が大切だと思います。

## 2 台風19号対応について

台風19号は大きな被害が予想され、警戒を呼びかける報道も繰り返されました。静岡県直撃の台風となるので、島田市では11日夕方から避難所を開設し、避難の呼びかけも行ってきました。避難所には963人、地区公会堂等にも約500人もが避難し、これまでの最高を記録しました。床上浸水が発生した上、氾濫の危険性が生じた河川もあり、早めの避難所開設や避難勧告の効果があつたと思います。

島田市では、12日朝8時に水防警戒本部を立ち上げ、被害情報の把握と対応をしてきました。冠水した道路の交通規制を消防団が行うなど、激しい嵐の中で活動していた方々がいたことを忘れてはならないと思います。

長野県などの大きな被害を見ると、いつか我が身に起こることとして、今回の台風を教訓（教材）にしなくてはなりません。1階にいての水死や車の中での死亡には、防ぐことができるものもあつたと思います。大きな被害が予測される場合は、どのように行動するか想定しておかなくてはなりません。危なくなってから避難所を探したり、何も持たずに避難所に駆け込んだりするようでは、周りの方に迷惑をかけます。しっかり準備をすることが大切です。学校としては、子供たちに適切な行動を考えさせることが務めだと思います。

避難所開設や台風通過後の施設点検及び雨漏り等への対処をしていただいた教職員の皆様に感謝します。

## 3 宮城県石巻市大川小学校の判決について

多くの児童が死亡した大川小学校の保護者が起こした裁判が結審し、市と県に14億円余の損害賠償が命じられました。判決は、震災前の防災対策の不備を理由にあげ、『津波の予測や学校の立地を詳細に検討しておけば津波の危険性は予測でき、危機管理マニュアルに避難経路や避難場所を定めておくべきだった。』と厳しいものになりました。

学校には児童の安全を確保する義務がありますが、市の作成したハザードマップにおいて津波浸水予想区域外であった学校に、津波による責任を求めるとは想像をしていませんでした。

台風19号でも大きな被害が発生しています。大河川の氾濫をどれだけの人が予測していたでしょうか。台風のように危険をある程度予測できるものでも、多くの死者が出ることがあります。今回の判例は、台風後の出水時に大地震が発生し、堤防が決壊するというような可能性の低い災害も想定しておかなくてはならないということです。最悪を想定することが学校には求められます。そのためには、地区の過去の災害を調べるのが大切かもしれません。

#### 4 木材市場見学会から

10月23日(水)に行われた木材市場見学会には、六合小3年生と島五小4年生が参加しました。銘木やプレカット工場の見学を通して、木の種類や用途について知り、種類により異なる木の匂いも体験しました。ヒノキのさわやかな匂いが気に入った子供は、お風呂に入れるためにとカンナの削りカスを持ち帰っていました。

この木材市場は、県下最大の規模だそうです。今回は台風の影響を受け、木材の集まりが少なかったようですが、集まった大木には圧倒されます。県下に誇る大きな市場が市内にあることを知らない人は多いと思いますが、その価値を子供たちに知ってもらいたいものです。



木材市場を見学する子供たち

## 肘かけ椅子

柳川 真佐明 教育委員

### 「木育」

10月24日 島田市御請にある榎スンエンにて静岡県で最大級の優良素材展示即売会が開かれました。今年で36回目を迎え、例年森林施業の繁雑期を迎えるこの時期に行われています。県内の各流域から優良な原木が出品され、他県からの多くの業者が入札に訪れました。即売会前日、島田市にある林業・木材関連業者からなる島田木材協同組合により、小学生への原木や木材加工現場の見学会も行われました。こちら15年程続いている行事で、今年も島田市立六合小学校、第五小学校の生徒160名に参加して頂きました。子供達が、丸太に触れ、鼻を当てながら樹種により違う香りを体験している楽しそうな様子が印象的でした。

私のいる木材業界では、最近「木育」というワードをよく使います。「木育」とは、北海道から発信されたもので、「子どもをはじめとするすべての人びとが、木とふれあい、木に学び、木と生きる」ことを学ぶ活動を言います。島田市では、この見学会以外にも、建具組合さんによる木工教室や、製材工場の見学会、島田産業まつりでの親子木工教室などの活動が行われていますが、今後この子供達の中に、森林の役目や、木材を使うことの大切さに興味を持ち、自然からの恵みに感謝する豊かなところが、育まれることを期待しています。

